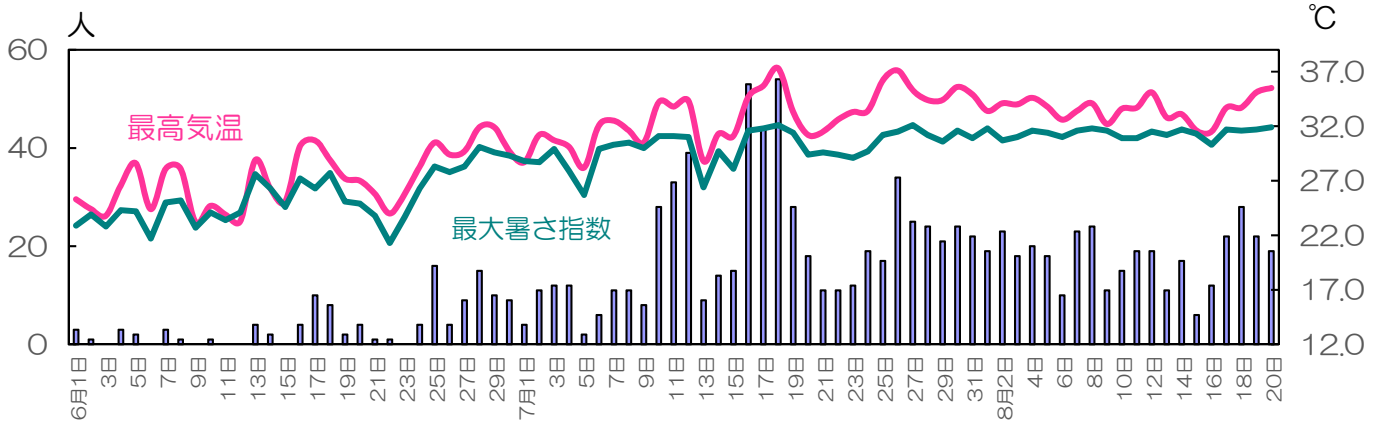


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和5年5月1日～8月20日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,142人（5月37人、6月117人、7月632人、8月356人）でした。7月14日以降、最高気温30℃以上、暑さ指数28℃以上と厳しい暑さが続いており、搬送数も8月15日を除き、10人以上/日です（7月18日は、最高気温37.3℃・暑さ指数32.1℃で、54人でした）。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。連日の猛暑で、体調を崩したりする事がないように、厳重な警戒が必要です。こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

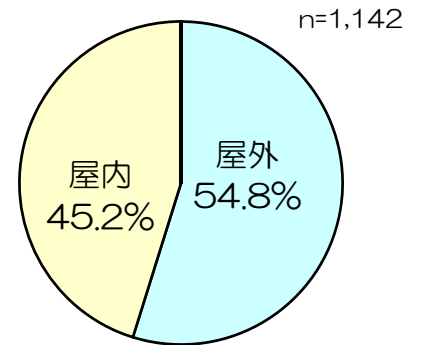
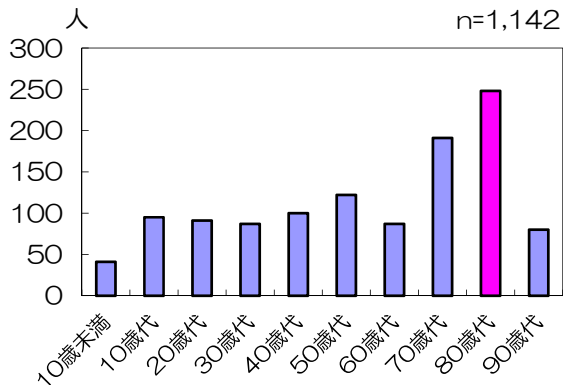
以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

## <年齢別>

80歳代が248人（21.7%）で最も多く、次が70歳代で191人（16.7%）でした。

## <発生場所>

屋外54.8%、屋内45.2%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症62.2%、中等症35.1%、重症2.3%、重篤0.4%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が53.4%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

